

5Gを活用したシングルシード方式による真牡蠣のスマート養殖

【背景と目的】

徳島県海陽町において、獲る漁業に加え新たに養殖業という、生産計画をたてられる育てるの漁業を浸透させる事で漁業者、新規就漁者の生活ベースを保証しうる産業へと成長させる仕組みを目指している。

その為に、作業（アクション）の最適化による生産効率の向上、新たに養殖業を始める人へのノウハウの見える化などを5GをはじめとするICTを利活用することで実現する。

ICTを活用した牡蠣のシングルシード方式の養殖イメージ

海が綺麗な海陽町に適した牡蠣養殖の手法

温度や波の変化に合わせたリアルタイムでの牡蠣のコントロールが重要



<実現場の写真（徳島県海陽町）>



高精細映像をリアルタイムで確認

牡蠣の藤壺付着、開き、重なりは
高精細映像が無ければ確認出来ない！！

行ってから判断ではなく、行かずして次の
アクションを決められる！！

高精細映像とセンサーデータを リアルタイムで取得するスマート養殖

短期的

漁場の状況（天候、波、温度等）、牡蠣の状態（開き、重なり、フジツボ付着、）を遠隔で確認でき、漁場での牡蠣の選定、移動などのアクションを事前判断。また盗難防止に繋がる。

中長期

得られたデータを徳島大学と連携して分析することで、経験則で行ってきた波や温度との関係を見える化し、養殖の安定化、効率化が期待できる。

長期的

他の地域で、牡蠣養殖に適する漁場をデータに基づいて判断し、海陽町モデルの横展開を目指す

経験に頼らない養殖業が、地方での
産業創出、雇用問題解決に貢献